

# れんげんだより

## 14

### 第14回研修

発行責任者

員弁組連研事務局

松隆寺 渡辺邦俊

## 今月の仏事作法

### 「正信偈の唱法④」

\*今回は聖典40ページ、念仏和讃の二重のところ  
です。

\*前回は初重でしたので、「レ」の音が基調になり  
ました。二重の念仏和讃は「ミ」の音が基本とな  
ります。

\*拍は一分間50〜60拍ですので、およそ一秒間  
に一拍のスピードです。

\*和讃は一字一拍が基本です。ただ、「解脱げだつの光輪こうりん  
の「脱だつ」のような二字仮名は二拍となります。

また、一字でも「**✓**」や「**・**」「**┆**」引などの記号が  
ある場合二拍となります。



木村智雄さん  
(25日講 西教寺)

## POINT

\*40ページ念仏四行目の最後、「**ー**」の記号は、  
息つきをせずに次行の念仏を発声します。

\*三首目と讃一行目、「**き**はもなし」の「**し**」や、  
四首目と讃一行目、「**空**」は八拍ということ  
意識して唱えてください。

\*音程だったり拍だったりとかがありますので、  
決まり通りに唱えるというのは大変難しいと  
は思いますが、繰り返し何回も聞いていただい  
て覚えていただくのがいいかなと思います。

## 今回のテーマ

「自分だけが幸せでよいのでしょうか。」

### 問題提起

様々なご縁で連研にいられた皆さんだし、自分  
だけが幸せであればそれでいいというより、みんな  
が幸せになった方がいいんじゃないかなという前提  
でお話し合いが進むのではないかなと思っています。  
サブテーマ(1)は、自分のことで精一杯だと言いな  
がら、実は誰かのためという思いがどこかにある  
のではないのでしょうか。例えば、地域の役を引き受

けておられる方もみえるでしょう。これなど決して  
自分が得るためにやるのではなく、誰かのために  
骨を折るということです。で、こんな役が当たって、  
こんなことをした、このように思った、といったこと  
をお話してください。また、このようなボランティア  
活動をしたことがある、現在しているといったこと  
の紹介でもいいと思います。

サブテーマ(2)は、災害だったり、大ごとでなくとも  
台風や地震などで、何かこういう手助けをした  
とか言ったエピソードを紹介しながら話し合いを進  
めてください。また、災害に備えて、我が家で備蓄  
をしているが、それは家のためにはあるが同時に、  
近所で何かあったら役立ててもらったりすること  
もあろうかと思えます。

サブテーマ(3)は、連研第12回で竹本了悟講師が、  
自死・自殺相談活動についてのお話をしてください  
ました。今回の話し合いでは、ぜひ話したいとい  
うことでなければ、無理にこのテーマに触れていただ  
かなくてもいいと思います。

これから地域の中だったり身近なところでの  
話し合いをしていただきたいと思っています。その際ど  
んな思いをもってそれをしたのか、また、それが終  
わったときにどういう感想を持たれたかについても  
お話しください。

### 話し合い法座で出された意見(一部)

「自分の幸せのこと」「やってみて良かったこと」

\*自分に余裕があれば、人に手を差し伸べることが  
できる。言い換えると、自分が幸せでない人に  
対して何もしてあげることができない。

- \*不幸せの状態がどうなのかわからないけれど、身近に幸せでない者がいると、自分も決して幸せだとは思えない。一人だけ、私だけが幸せというのはどうなのかわからない、定義づけができない。
- \*毎日毎日きちんと、人に迷惑を掛けないように生きているということが、自分にとっては幸せ。
- \*退職後、自治会長とか老人会長とかをボランティアでやってきたが、現状自分の健康状態で、人生観や幸福感が変わってしまった。今では何でもないふつうにやれることが幸せだったと思う。
- \*体調が万全ではない中で、寺の行事に参加させてもらうようになった、仏社会長をさせられ、連研究講や、勉強をするようになった。夫婦での旅行が些細な楽しみ。自分のことで精一杯ではあるが、それでも地元のことでも何か役に立てればいいなと思っている。
- \*幸せ、不幸せを決めるのは自分。周りから特定の人の幸せ、不幸せを論じるものではない。災害に遇われた人を傍からあの人は不幸だとは言えない。不幸せをいかに幸せにしていけるか、その努力はその人でしかできないので、ボランティアにせよ何か懸命にされたことで幸せ感を味わえたらそれもひとつかなと思う。
- \*今までいろいろな経験をさせてもらって、いろんな人から支えていただいていることに気づいた。そして、困っている人に声かけができて、その後立ち直ってくれたことがうれしかった。
- \*幸せだと感じるができること、周りの人への接し方もやさしくなれるというか認め合える。人との関わり合いなしでは、幸せは得られないと思うので、それが一番大事なこと。



山内教真さん  
(25日講 西念寺)

「災害のこと」

- \*東日本大震災の時、遠い親戚から物資不足のOSがあつてこちらから送ったことがある。近い将来逆のこともありうるので、遠い親戚であつても普段から疎遠にしていはいけないと思つた。
- \*避難所へ行けるかどうか、そこで過ごせるかどうかもわからないので、近所同士の助け合いが必要となると普段からの付き合いが大事だ。
- \*広域地震の場合、地方に物資が届くか不明。とすると、各家庭である程度の備蓄は必要。
- \*自宅に太陽光発電の設備や井戸の保存があるので、いざというときにはそれらを活用し、ご近所にも少しはお助けになるのかなと思つている。

今回のまとめ

「自分だけが幸せでよいのでしょうか」と問われれば、多くの方が、それではいけないと答えるでしょう。すでにこれまでの連研で話し合ってきたように、私たちが他者へと目を向け、広く社会に対して問題意識を持つことは、自明のことと思われれます。「私だけが(あるいは私と私の家族だけが)よけれ

ばそれで構わない、他人のことなどどうでもよい」という考えは受け入れがたい、というのが私たちに共通した認識でしょう。

では、こうした「他者への共感」を仏教ではどう教えているのでしょうか。お釈迦さまは、さとりを得るためには「犀の角のようにただ独り歩め」と説かれましたが、その一方で「高邁・明敏な友と交われ」と、人間関係を重視する言葉も残されました。その後、数世紀を経て発展した大乘仏教※では、生きとし生けるすべてのものの救済を理想とするようになります。大乘仏教を代表する経典の一つ『維摩経(維摩詰所説経)』には、「一切の衆生病を以つてこの故に、我病む。もし一切の衆生の病滅すれば、すなわち我が病も滅す」と説かれ、他者の救いこそ重要であることが強調されています。また、私たちが普段手を合わせている阿彌陀如来は、自らのさとりと私たちの救いを共に成し遂げた(自利他円満)、知恵と慈悲の仏さまであると、親鸞聖人も仰つておられます。

このような仏教の教えに触れ、仏さまのおこころを感じ取るとき、私たちは何をなすべきなのでしょう。私の目の前に、苦しみや悲しみに打ちひしがれている「あなた」がいるならば、たとえ「あなた」の苦悩をきれいに取り除くことはできなくとも、せめてその苦悩を知り、その苦悩を分かち合うことはできるでしょう。「あなた」の手を取り、その悲しみに思いを致してともに涙を流す。それこそが私たち仏教徒としての生き方なのではないでしょうか。

※大乘仏教 紀元前後からインドに広まった仏教の変革運動。誰もがブッダとなる素地を持つ、人々の救済を目指す、などの教えを特徴とする。